

目的と方法

著者	佐藤 亮一
雑誌名	方言文法全国地図
ページ	1-5
発行年	1989-03
シリーズ	国立国語研究所研究発表会 ; 昭和63年度
URL	http://doi.org/10.15084/00002883

目的と方法

佐藤 亮一

1. 研究の目的

『方言文法全国地図』は、文法事象に関するこれまでの研究に地理的視野を与えることを目的として作製された。すなわち、本書の刊行の目的は、これまでに記述されている各地の文法事象が、どこに、どのような広がりをもって分布しているかを、全国的な視野で明らかにすることによって、以下に記すような分野の研究あるいは教育に貢献することにある。

- (1) 各地の方言文法体系に関する研究を促進する。
- (2) 分布類型論、および、方言区画論に貢献する。
- (3) 文法事象の全国分布を言語地理学的に解明する。
- (4) 全国共通語の基盤とその成立過程を明らかにする。
- (5) 文献研究による日本語の歴史と方言分布との関連について考察する。
- (6) 方言社会、あるいは、方言地域出身者に関わる国語教育・日本語教育に役立つ資料を提供する。

2. 研究の経過

※ 1. 各地方言文法調査の準備的研究

(1976=昭和51年度 期間1か年 通常研究)

2. 表現法の全国的地域差を明らかにするための調査方法に関する研究

(科研費 総合B 期間1か年)

- ・方言文法に関する既刊文献の目録を作成。
- ・宮崎県内の5地点で実験的小調査を実施。
- ・全国21地点で実験的小調査を実施(科研費)。

※ 1. 方言における音韻・文法の諸特徴に関する全国的調査研究

(1977=昭和52年度～1981=昭和56年度 期間5か年 特別研究)

2. 表現法の全国的調査研究(科研費 総合A 期間2か年)

- ・準備調査の実施(1977=昭和52年度。544項目、全国161地点)。
- ・準備調査の結果を整理し、本調査票(2種類 計267項目)を作成(1978=昭和53年度)。
- ・本調査の実施(地点数は、1982年度以降の補充調査を含めて807)

※ 文法の諸特徴についての全国的調査研究-補充調査-

(1982=昭和57年度 期間1か年 通常研究)

(3ページより続く)

比江島修一	彦坂 佳宣	日高貢一郎	日野 資純	広戸 惇
廣濱 文雄	福島 明	福島 秩子	本堂 寛	馬瀬 良雄
松浦 文雄	松田謙次郎	松本 宙	三浦 芳夫	三石 泰子
宮島 達夫	宮本 登	虫明吉治郎	村内 英一	室山 敏昭
森下 喜一	矢作 春樹	藪原 繁里	山泉るみ子	山口 幸洋
山本 俊治	吉田 則夫	和田 實		

- ※ 1. 文法的特徴の全国的地域差に関する研究
 (1983=昭和58年度~1987=昭和62年度 期間5か年 特別研究)
- 2. 方言研究資料の電子計算機による作成および分析に関する研究
 (科研費 一般B 期間3か年)
 - ・調査結果のすべてを電子計算機に入力。
 - ・本調査結果の基本的整理。一部の項目について言語地図(草稿地図)を作製。
 - ・全国14地点で体系的調査を実施。
 - ・報告書の基本的編集方針について検討。「語形採用規則」「語形統合規則」等、原稿地図作製のためのマニュアルを作成。
 - ・『方言文法全国地図』第1集の言語地図(原稿地図)の作製,および、同解説書の執筆開始(1987=昭和62年度)。

※方言文法地図作成のための研究

(1988=昭和63年度~1994=平成6年度 7か年計画)

- ・『方言文法全国地図』第1集の編集・刊行(1988=昭和63年度)

3. 調査の方法

- 3. 1. 調査項目
 - 3. 1. 1. 調査項目選定の方法
 - 3. 1. 2. 本調査の項目内容
 - ・第1集に掲載する項目……助詞の形態を中心とする計60項目(別表参照)
 - ・第2集および第3集に掲載予定の項目……動詞・形容詞・形容動詞の活用に関する項目(補助資料参照)
 - ・第4集・第5集・第6集に掲載予定の項目……表現法に関する項目(補助資料参照)
- 3. 2. 質問法……基本的には標準語翻訳方式(補助資料参照)
- 3. 3. 調査地点
 - 3. 3. 1. 調査地点選定の基準
 - 3. 3. 2. 都道府県別調査地点数・地点密度(別表参照)
- 3. 4. 話者
 - 3. 4. 1. 調査の対象としたことば……各地で現実に話されていることばのうち、比較的古い言語(高年層の用いる共通語まじりの伝統的方言)。
 - 3. 4. 2. 話者の具体的条件
 - (1) 生年(年齢)・性……1925(大正末年)以前に生まれた男性。ただし、1925年は認めうる最下限を示したものであり、原則として、調査時において60歳~75歳の範囲であることが望ましい(1925年生まれの話者は、調査発足の年に54歳である)。
 - (2) 居住歴……15歳まではよその土地(他の市町村やよその字)で生活したことがなく、それ以後、よそで生活したとしても、その期間が10年以内の人。

3. 4. 3. 話者の生年分布

1891 (明治24) …… 2人	1905 (明治38) ……41人	1919 (大正 8) ……21人
1892 (// 25) …… 2	1906 (// 39) ……32	1920 (// 9) ……24
1893 (// 26) …… 1	1907 (// 40) ……44	1921 (// 10) ……16
1894 (// 27) …… 3	1908 (// 41) ……55	1922 (// 11) …… 6
1895 (// 28) …… 2	1909 (// 42) ……61	1923 (// 12) …… 5
1896 (// 29) …… 2	1910 (// 43) ……52	1924 (// 13) …… 9
1897 (// 30) …… 7	1911 (// 44) ……62	1925 (// 14) ……11
1898 (// 31) …… 8	1912 (大正 1) ……54	1926 (昭和 1) …… 2
1899 (// 32) ……11	1913 (// 2) ……49	1927 (// 2) …… 4
1900 (// 33) ……12	1914 (// 3) ……47	1928 (// 3) …… 2
1901 (// 34) ……14	1915 (// 4) ……39	1929 (// 4) …… 1
1902 (// 35) ……18	1916 (// 5) ……40	1930 (// 5) …… 1
1903 (// 36) ……24	1917 (// 6) ……47	1931 (// 6) …… 2
1904 (// 37) ……37	1918 (// 7) ……31	合計 901人

3. 4. 4. 話者の職業分布 (かっこ内は職歴が単業の者の数)

a. 農林業……………446 (287)	h. 特別公務員…………… 54 (1)
b. 漁業…………… 67 (32)	(市町村議員・教育長・町長など)
c. 商業……………149 (76)	i. 会社員・団体職員……………112 (30)
d. 職人…………… 52 (26)	j. その他…………… 52 (15)
e. 僧侶・神官…………… 15 (7)	k. 職歴なし…………… 1 (1)
f. 教員……………138 (93)	x. 不明……………8 (8)
g. 公務員……………133 (39)	

(fとhを除く)

3. 5. 調査者 (準備調査を含む)

3. 5. 1. 国立国語研究所担当研究室 (担当研究部) 員

飯豊毅一 (現在、昭和女子大学教授) 佐藤亮一 真田信治 (現在、大阪
大学助教授) 沢木幹栄 小林隆

3. 5. 2. 調査協力者 (国立国語研究所地方研究員ほか)

愛宕八郎康隆	天野 義広	五十嵐三郎	井上 章	井上 史雄
今石 元久	岩井 隆盛	江端 義夫	遠藤 潤一	大島 一郎
大橋 勝男	岡野 信子	沖 裕子	荻野 綱男	奥村 三雄
小野 米一	鏡味 明克	加藤 和夫	加藤 毅	加藤 信昭
加藤 正信	鎌田 良二	川本栄一郎	神部 宏泰	熊谷 直孝
剣持準一郎	後藤 和彦	近藤 碩二	斎藤義七郎	崎村 弘文
迫野 虔徳	佐々木隆次	佐竹 人喜	佐藤 和之	佐藤 茂
佐藤 虎男	佐藤 稔	佐藤 芳則	茂田 恵	篠木れい子
清水 茂夫	下野 雅昭	杉村 孝夫	瀬戸山計佐儀	添田建治郎
田籠 博	田尻 英三	種 友明	近石 泰秋	土居 重俊
道場 優	徳川 宗賢	長尾 人志	中條 修	永瀬 治郎

(以下、1ページに続く)

都道府県別調査地点数・地点密度

都道府県	日本語地区			方言文法全国地区		
	調査地点数	人口地点密度	面積地点密度	調査地点数	人口地点密度	面積地点密度
北海道	83	1.6	1.1	33	0.6	0.4
青森	74	5.2	7.9	24	1.6	2.5
岩手	91	6.3	6.0	33	2.3	2.2
宮城	57	3.3	7.8	16	0.8	2.2
秋田	75	5.6	6.4	25	2.0	2.2
山形	54	4.1	5.8	21	1.7	2.3
福島	80	3.9	5.9	30	1.5	2.2
茨城	49	2.4	7.5	15	0.6	2.5
栃木	43	2.8	6.7	15	0.8	2.3
群馬	41	2.6	6.5	15	0.8	2.4
埼玉	31	1.2	8.2	9	0.2	2.4
千葉	49	1.3	9.6	12	0.3	2.3
東京	34	0.4	17.0	12	0.1	5.6
神奈川	23	0.7	9.5	7	0.1	2.9
新潟	91	3.7	6.2	29	1.2	2.3
富山	31	3.0	7.2	11	1.0	2.6
石川	43	4.4	10.2	13	1.2	3.1
福井	33	4.4	7.7	10	1.3	2.4
山梨	29	3.7	6.4	9	1.1	2.0
長野	78	3.9	5.7	28	1.3	2.1
岐阜	61	3.7	5.8	22	1.1	2.1
静岡	64	2.3	8.2	21	0.6	2.7
愛知	45	1.1	8.8	16	0.3	3.1
三重	52	3.5	9.0	16	0.9	2.8
滋賀	31	3.7	7.0	9	0.8	2.2

都道府県	日本語地区			方言文法全国地区		
	調査地点数	人口地点密度	面積地点密度	調査地点数	人口地点密度	面積地点密度
京都	36	1.8	7.8	12	0.5	2.6
大阪	19	0.3	10.6	6	0.1	3.2
兵庫	71	1.8	8.6	22	0.4	2.6
奈良	23	2.9	6.2	9	0.7	2.4
和歌山	42	4.2	8.9	13	1.2	2.8
鳥取	30	5.0	8.6	10	1.7	2.9
島根	57	6.4	8.6	19	2.4	2.9
岡山	57	3.4	8.1	18	1.0	2.5
広島	67	3.1	8.0	22	0.8	2.6
山口	59	3.7	9.7	15	0.9	2.5
徳島	32	3.6	7.6	10	1.2	2.4
香川	22	2.4	11.6	7	0.7	3.7
愛媛	50	3.4	8.9	16	1.1	2.8
高知	52	6.1	7.3	15	1.8	2.1
福岡	44	1.1	9.0	12	0.3	2.4
佐賀	20	2.1	8.3	6	0.7	2.5
長崎	64	3.7	15.6	22	1.4	5.4
熊本	54	2.9	7.2	18	1.0	2.4
大分	53	4.3	8.4	15	1.2	2.4
宮崎	55	4.9	7.1	19	1.6	2.5
鹿児島	91	4.6	9.8	38	2.1	4.1
沖縄	60	6.2	25.0	32	2.9	14.2
全国	2400	2.5	6.5	807	0.7	2.1

人口地点密度……人口10万人あたりの地点数

面積地点密度……面積1,000km²あたりの地点数

1. 雨が(降ってきた) <094>
2. 先生が(来られた) <100>
3. どろぼうが(入った) <101>
4. 酒が(飲みたい) <116>
5. 酒が(好きだ) <117>
6. 酒を(飲む) <118>
7. おれを(連れて行ってくれ) <115>
8. そんなことを(言うな) <145>
9. そんなことを(言うな) <145>
10. あれは(学校だ) <120>
11. ビールは(飲まない) <119>
12. 酒は(飲む) <119>
13. おれの(手拭) <103>
14. 先生の(手拭) <104>
15. どろぼうの(手拭) <105>
16. (ここに)有るのは <102>
17. 行くのでは(ないか) <143>
18. 行くのに(便利だ) <098>
19. 東の方△(行け) <106>
20. 東京に(着いた) <107>
21. 見に(行った) <108>
22. 仕事に(行った) <110>
23. 大工に(なった) <112>
24. ここに(有る) <113>
25. おれに(貸せ) <114>
26. 息子に(手伝いに来てもらった) <122>
27. 犬に(追いかけられた) <124>
28. 運動場で(遊ぶ) <121>
29. 船で(来た) <123>
30. 1万円で(お願いします) <135>
31. それより(あの方が良い) <140>
32. 田中という人 <099>
33. (雨が)降っているから <095>
34. だから(言ったじゃないか) <096>
35. だから(言ったじゃないか) <096>
36. 子どもなので(わからなかった) <141>
37. 子どもなので(わからなかった) <141>
38. 寒いけれども(がまんしよう) <092>
39. だけど(行かなければならない) <091>
40. 植えたのに(枯れてしまった) <097>
41. 食いながら(歩くな) <129>
42. 買物がてら(見物する) <109>
43. 帰りかけに(買物をした) <111>
44. お茶でも(飲もう) <133>
45. パンでも御飯でも(好きな方を
食べなさい) <128>
46. 子どもでも(知っている) <142>
47. 皮だけ(食べた) <131>
48. (食って)寝るだけなら <130>
49. 雨ばかり(降っている) <093>
50. 百円くらい(使った) <136>
51. 百円しか(ない) <137>
52. 百円ぶん(ください) <134>
53. 皮ごと(食べた) <132>
54. 傘なんか(いらない) <139>
55. 安ければ安いほど(良い) <138>
56. 何か起こるやら(わからない) <125>
57. 誰やら(来た) <126>
58. 筆やら紙やら(たくさんもらった) <127>
59. 行くだの行かないだの(ぐずぐず言うな)
<144>
60. 今日こそ(終らせる) <146>